

## (9) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

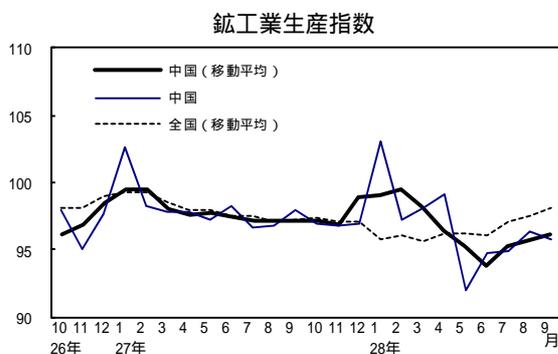
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年8月)	今回(平成28年11月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、輸送機械は、停止していた軽乗用車の生産再開があったこと等から増加した。化学は、工場の定期修理等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、圧縮機の出荷タイミング等で前期から増加した。鉄鋼は、一部工場の定期修理等はあるが、需要は堅調であり増加した。電子部品・デバイス、海外及び国内向けの車載部品が引き続き好調であるものの、前期からは減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.5	10.2	3.1	4.0	2.5	6.3
化学	16.4	3.5	4.5	4.2	0.3	7.9
はん用・生産用・業務用機械	11.2	10.5	8.1	10.3	11.4	7.7
鉄鋼	7.7	0.1	3.5	7.0	0.3	2.9
電子部品・デバイス	7.1	7.9	3.0	13.4	12.3	4.1
鉱工業	100.0	4.2	0.4	0.2	1.6	0.6

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び中国の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

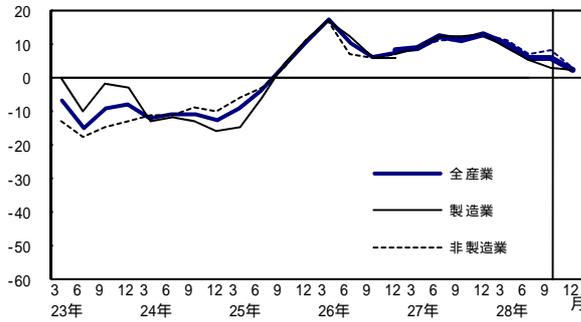
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7～9月期、9月は速報値。

(9) 中国

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

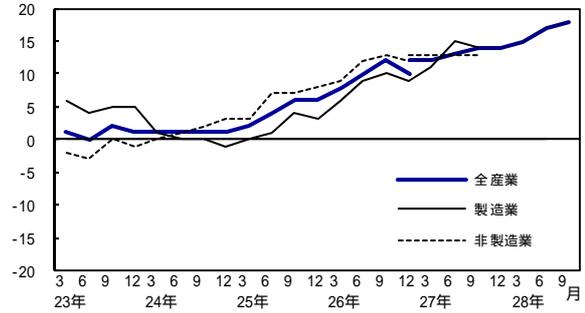
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



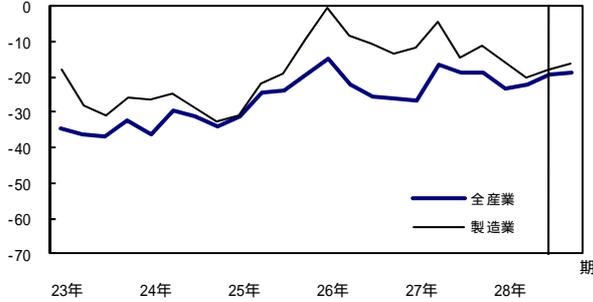
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



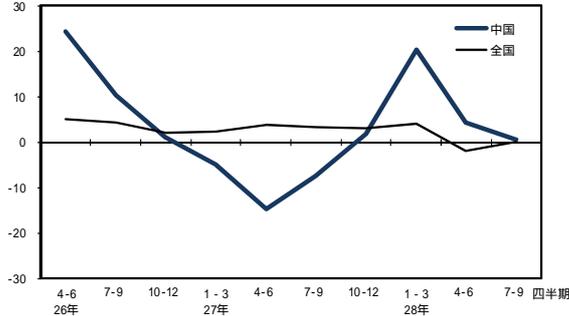
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「製造系や流通系の客をベースに情報セキュリティ商材への関心が高く、提案機会が増加している(通信業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度計画
全産業	5.7	12.5 (4.1)
製造業	0.9	21.3 (5.7)
非製造業	15.3	1.3 (1.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.4%減、8月は同0.4%減、9月は同0.3%増となった。

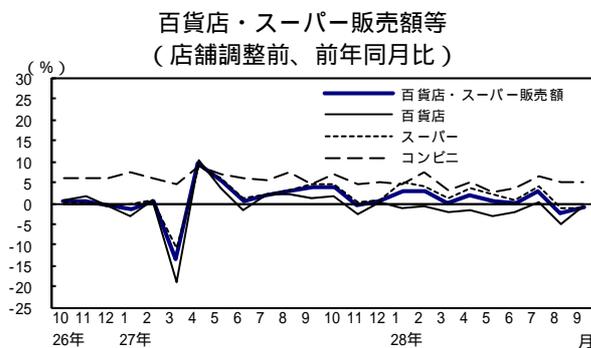
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、紳士服、婦人服で、クリアランスセール後半の伸び悩みはあったものの、お中元や改装効果により飲食料品は引き続き好調で、前年を上回った。8月は、家庭用品の売れ行きは良かったものの、衣料品で夏物クリアランスの失速と初秋物の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。9月は、一部では地元球団の優勝のセール効果により、全般的に非常に好調だったものの、前年より気温が高い日が多かったため、秋物衣料品の販売が落ち込み、全体としては前年を下回った。

スーパーは、野菜の相場の高騰が押し下げ要因になったものの、飲料、惣菜は引き続き好調で、地元球団の優勝セールも好調で、全体としては前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「地域内に競合店がひしめいているが、どこも売上が前年を大きく下回る数字であり、客の消費マインドが低下している(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が減少した。

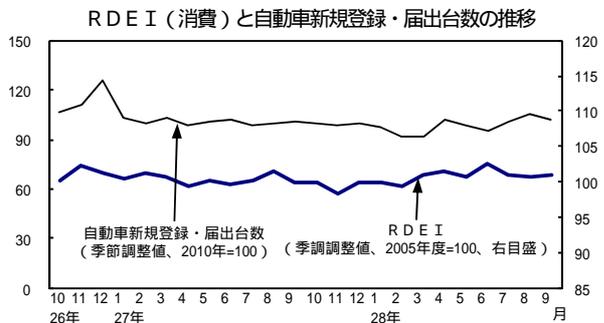


	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.7	1.4	0.4	0.3
百貨店・スーパー(*2)	0.0	3.0	2.3	1.0
百貨店(*2)	1.6	0.4	5.1	0.7
スーパー(*2)	0.6	4.2	1.3	1.2
コンビニ(*2)	5.6	6.6	5.2	5.1
乗用車(*3)	2.5	0.4	7.1	1.1
(季節調整値)(*3)	4.2	6.0	5.1	3.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

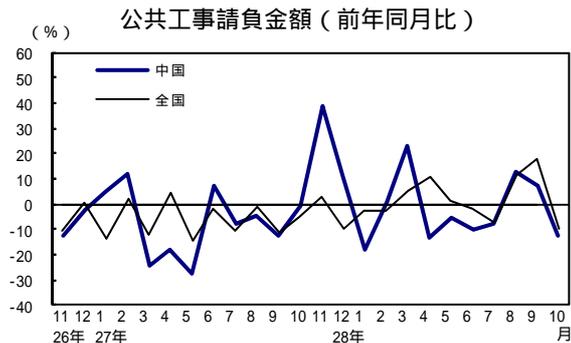
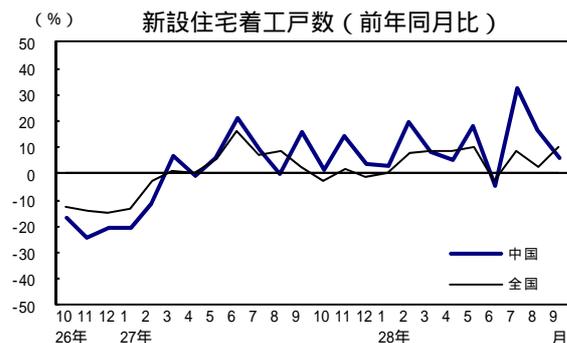
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は、28年度累計で見ると前年度を下回っている。



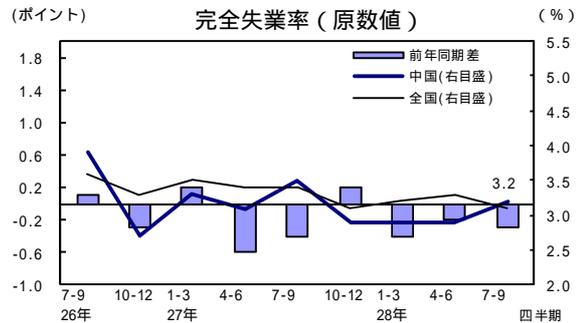
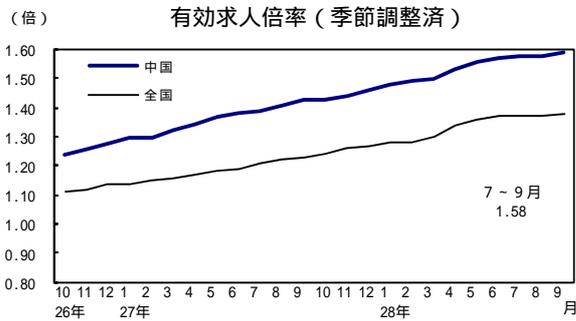
(9) 中国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連(現状)]

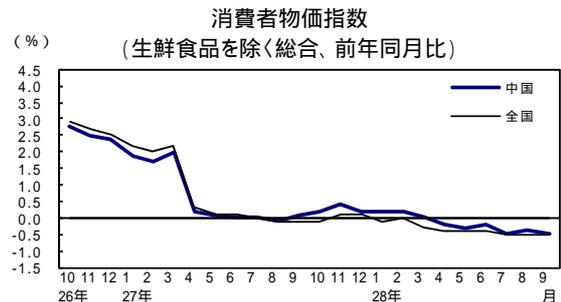
「新規求人は大幅増員のあった土産菓子製造会社の影響で製造業が対前年度比2割増となったものの、サービス業など減少した業種も多く、求人全体では横ばいとなっている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	85	91	90	93	21
(前年比)	20.6	23.5	2.2	6.9	32.3
負債総額	131	154	145	122	37
(前年比)	29.7	41.8	11.3	34.5	0.9



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・秋の行楽シーズンで観光客の動く時期であるが、鳥取県中部地震の影響により、団体旅行のキャンセルなどもあり鳥取県への動きが鈍くなっている(テーマパーク)

<先行き>

・年末に向けての予約がすでに入り始めており、前年と比べて予約組数も順調に伸びている。好調であるインバウンドも引き続き期待が持てる(一般レストラン)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

